

こんどの旅行は“4ハク”か“4パク”か

～2023年「日本語のゆれに関する調査」から(1)～

メディア研究部 塩田雄大 / 中島沙織

- ▶ 語の複合によりハ行音がバ行音となる「半濁音化」をめぐって、「泊・発・班・分間」およびその他のハ行音漢語助数詞に関し、①「3」よりも「4」のほうが半濁音化しない回答が多い、②半濁音化しない回答は若年になるほど多い、という傾向が、共通して観察された。この背景には言語変化としての「半濁音化から非半濁音化へ」という流れが想定され、この動きは東日本で先行して進みつつあるものと推定された。
- ▶ 「あり得る」「起り得る」に関し、「起り得る」については、現代口語形「オコリエル」から、新しい文語形である「オコリウル」への回帰が進みつつあることが推定された。
- ▶ 「サステ(イ)ナブル」の語形のゆれに関し、原語(英語)に比較的忠実な「サステイナブル」という形が今後主流になっていく可能性は、おそらく低いものと予想された。
- ▶ ニュースで、小学生の男の子を「〇〇くん」、女の子を「〇〇さん」と呼ぶことについてどう思うか尋ねたところ、全体では「さん」に統一しなくてよい」と答えた人が多かったが、30代女性では「さん」に統一するのがよい」と答えた人が半数を超え、男女差、世代差があることがわかった。また、事件報道において、小学生の男の子に付ける敬称としては、「くん」を支持する人が最も多かった。一方で、「さん」を支持する人は前回(2015年)の調査より増加し、特に中年層ではほかの年齢層より「さん」を支持する人の割合が高かった。
- ▶ 「前倒し」という名詞が動詞化したと考えられる「前倒す」は、比較的若い年代を中心に浸透しつつある。

はじめに

定期的実施している「日本語のゆれに関する調査」(今回は2023年2月と3月の2回に分けて実施)の結果の分析を、今号と次号で報告する。今号では下記について取り上げる¹⁾。

1. 助数詞の半濁音化について

「3泊・4泊」「3発・4発」「3班・4班」

「3分間・4分間」「3匹・4匹」

2. 語形のゆれについて

「あり得る(アリウル～アリエル)」

「起り得る(オコリウル～オコリエル)」

「サステナブル～サステイナブル～サステイナブル」

3. 男子と女子の敬称

「さん～くん～ちゃん」

4. 名詞の動詞化

「前倒しにする～前倒す」「先延ばしにする～先延ばす」

1・2章は塩田が、3・4章は中島が執筆した。調査結果の単純集計表は末尾に掲げた。

1. 助数詞の 半濁音化について

1.1 半濁音化

ハ行音で始まることばの前に、ほかのことばが結合したことで、その部分がパ行音であらわれることがある。これを「半濁音化」と言う。

ひるま(昼間) → まっぴるま(真っ昼間)
はらう(払) → おっばらう(追っ払う)
ひき(匹) → いっぴき(一匹)
ふう(風) → かんふう(寒風)
(肥爪周二(2014))

上記の例にもみられるように、半濁音化によってあらわれるパ行音の直前の音は、ごく一部の例外²⁾を除き、促音(小さい[っ])・撥音([ん])であるのが通例である。そうでない場合(下記例の「二匹」「校風」)は、半濁音化しない。

ひき(匹) → いっ^っぴき(一匹)
→ に^っひき(二匹)[× に^っひき]
ふう(風) → かん^っふう(寒風)
→ こう^っふう(校風)[× こう^っふう]

また、複合語における語構成上の切れ目の大小によって、半濁音化の発生に違いがみられることがある。下記例の「鉛筆」は意味上一つのかたまりであるのに対して、「万年筆」は「万年」と「筆」の間に一定の切れ目があると考えられるため、半濁音化しない。

あか(赤) + えん^っびつ(鉛筆)
まんねん(万年) + ひつ(筆)[× まんねん^っびつ]
(塩田雄大(2008))

なお、半濁音化は和語・漢語において起こ

りうるものであり、外来語では直前の音が撥音であっても生じない³⁾。

インターハイ
→ [略して] インハイ [× インパイ]
(cf. みんかんほうそう(民間放送))
→ [略して] 民んほう(民放)[× 民んほう]
オープンハウス [× オープンパウス]
シベリアンハスキー [× シベリアンパスキー]
チロリアンハット [× チロリアンパット]
オゾンホール [× オゾンポール]
ブラウンヘア [× ブラウンペア]
ペンホルダー [× ペンポルダー]

「ゆれ」に関して述べると、半濁音化した語形が伝統的であったものの一部に、半濁音化を起こしていないものが近年増えつつあることが指摘されている(たとえば坂本充(2010)で挙げられている「なんぶん(何分)・なんはつ(何発)」など)。

また、「さん(3)」と「よん(4)」はいずれも撥音で終わっているが、両者では半濁音化の発生に違いがみられることが指摘されている。田野村忠温(1990) p.199では、ハ行で始まる助数詞(「杯・泊・発・版・犯・匹・票・品・分・遍・篇・歩・方・本」など)に関して、「3」のあとでは半濁音化するものが多いが、「4」のあとではその比率が相対的に低いことが記されている。田端敏幸(2010) p.100では、「4泊」はヨンパクとヨンハクが可能であり、どちらの形式がより好まれるのかについては詳しい調査が必要である旨が示されている。

「3」のあとでは半濁音化するものが多いのに「4」のあとではその割合が下がる理由について、田野村忠温(1990) p.216の記述を単純化して述べると、次のようになる。

- ①「～発」を例にとると、「3発」はもともと半濁音化形「さんぱつ」（「三」の音読みの「さん」）であった。
- ②それに対して「4発」は、古くは「しはつ」（「四」の音読みの「し」）であったのが、数字部分が「よ（ん）」（「四」の訓読みの「よ（ん）」）に置き換えられるようになった。
- ③その際に、もとの「しはつ」から数字部分のみを単純に置き換えた「よんはつ」という形と、「さんぱつ（三発）」の「-ぱつ」からの類推によって生じた「よんぱつ」という言い方が併存するようになった。

なお、「し」が「よ（ん）」に置き換えられるようになった理由については、「し」という音が「死」を連想させるためであると推定されている（鈴木博（1986）・野田村忠温（1990）・館野由香理（2012）など）。かつて「しかい（四階）」と発音されていたのがおそらく「忌みことば」の意識（「し」という音が「死」を連想させる）によって「よんかい（四階）」と言うようになった（塩田雄大（2005））のも同じ原理によるものであり、こうした言いかえの歴史的な諸例は鈴木博（1986）で豊富に紹介されている。

1.2 特に「泊・発・班」の半濁音化について

まず、放送で用いる発音としての「3泊・3発・3班」「4泊・4発・4班」に対するこれまでの扱い（推奨形）については、1960年以降の放送用語関連資料での掲載状況（塩田雄大（2023）p.78）から、次のように述べることができる。

放送での扱い（推奨形）：

- ①「3」については、半濁音化形 [サンパク]

[サンパツ] [サンパン] のみを提示してきている。

- ②「4」については、半濁音化形 [ヨンパク] [ヨンパツ] [ヨンパン] のみから、非半濁音化形 [ヨンハク] [ヨンハツ] [ヨンハン] も併せて提示する方向におおむね変遷してきている。

放送での扱い（推奨形）としては、2023年9月の放送用語委員会（第1466回）において、下記の決定がなされた。

【4泊・4拍】：1. ヨンハク 2. ヨンパク
（これまで 1. ヨンパク 2. ヨンハク）

【4発】：1. ヨンハツ 2. ヨンパツ
（これまで 1. ヨンパツ 2. ヨンハツ）

【4班・4版】：1. ヨンハン 2. ヨンパン
（これまで 1. ヨンパン 2. ヨンハン）

あわせて、「14発・24発・34発…」なども同様とする。

（塩田雄大（2023））

なお参考までに、各地の方言（被調査者は高齢者層が中心）においては、「3泊」「4泊」いずれも半濁音化形 [サンパク] [ヨンパク] であるとすることが主流である（表1）。

表1 方言での「3泊」「4泊」

「3泊」「4泊」	
サンパク、 ヨンハク	▼群馬県藤岡市中大塚▼富山県富山市【若年層】▼石川県珠洲市三崎町粟津▼岡山県新見市坂本▼佐賀県三養基郡基山
サンハク、 ヨンパク	▼山口県山口市
サンパク、 ヨンパク	▼宮城県柴田郡柴田町大字槻木▼埼玉県秩父市下影森▼神奈川県横浜市南区前里町▼長野県松本市島立（町区）▼富山県富山市【老年層】▼福井県大野市▼三重県鈴鹿市白子▼鳥根県大原郡木次町▼鳥根県邑智郡桜江町小田▼広島県安芸郡倉橋町室尾▼高知県中村市敷地▼福岡県北九州市若松区島郷▼長崎県長崎市手熊町

（方言研究ゼミナール編（1996）から塩田まとめ）

1.3 調査結果

今回、「3泊・4泊」「3発・4発」「3班・4班」「3分間・4分間」について調査をおこなった。また半濁音化の例ではないが、「3匹・4匹」についても取り上げた。

1.3.1 全体傾向

～3と4では半濁音化の傾向が異なる～

まず、全体結果について見てみる。

「3泊・4泊」「3発・4発」「3班・4班」につ

いては、「3」では半濁音化形[サンパク][サンパツ][サンパン]が最多であるのに対して、「4」では非半濁音化形[ヨンハク][ヨンハツ][ヨンハン]が最多であるという特徴が、共通してみられる(図1～3)。

「3分間・4分間」については、「3」では半濁音化形[サンブンカン]が圧倒的であるという傾向は「泊・発・班」と共通している一方で、「4」においても半濁音化形[ヨンブンカン]が最多になっているという違いがみられる。ただ

図1 「3泊4日 / 4泊5日」の旅行 [どう言いますか]

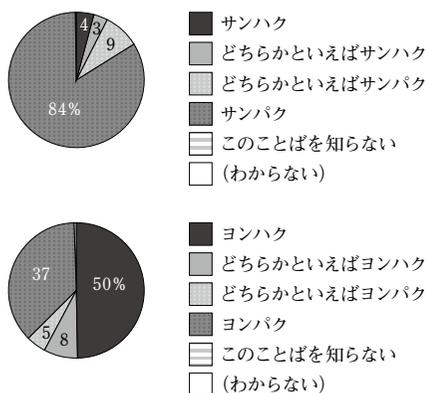


図3 「3班 / 4班」に分かれて発表をおこなう [どう言いますか]

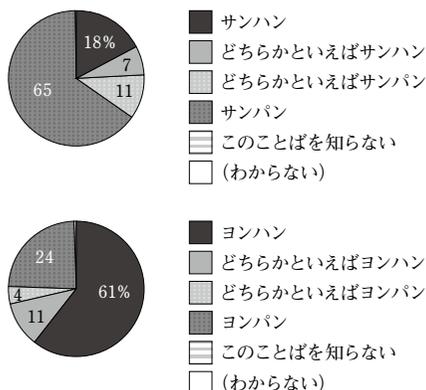


図2 ミサイルが「3発 / 4発」発射された [どう言いますか]

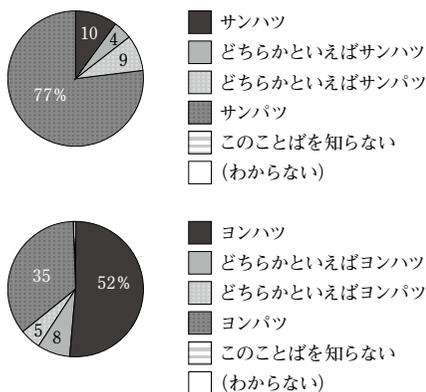


図4 そのまま「3分間 / 4分間」お待ちください [どう言いますか]

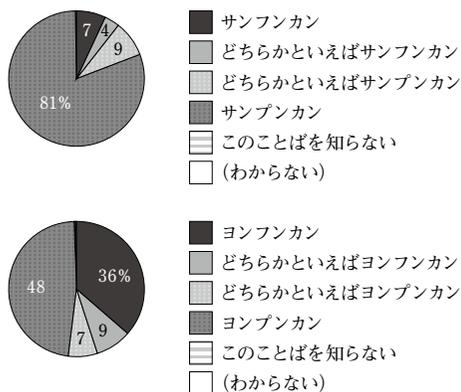
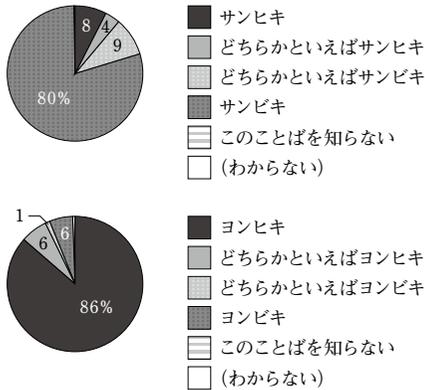


図5 「3匹 / 4匹」の子犬 [どう言いますか]



し「3分間」と「4分間」を比べると、非半濁音化形[…フンカン]の占める割合は「4」においてのほうが多い(図4)。

また「3匹・4匹」においては、「3」では濁音化形[サンビキ]、「4」では非濁音化形[ヨンビキ]が最多となっている(図5)。先述したように「3匹・4匹」は半濁音化の例に当たるものではないが、「非濁音化形[…ヒキ]は、「3」では少なく、「4」では多い」という観点からは、上記の「泊・発・班」および「分間」と、共通した傾向を見せる。

1.3.2 属性別傾向(年代別)

～衰退しつつある半濁音化～

次に、これらについて年代別に見てみる。

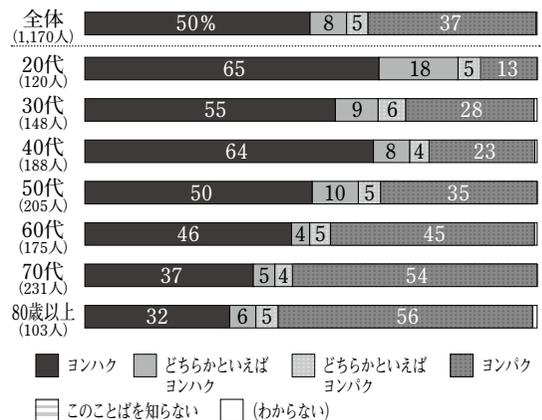
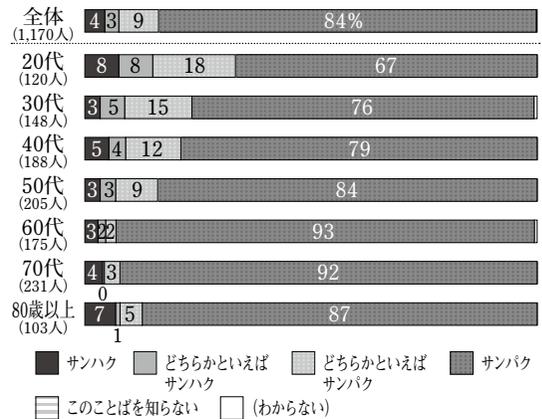
まず「3」に着目すると、「泊・発・班」および「分間」に共通する傾向として、比較的若い年代では非半濁音化形[サンハク][サンハツ][サンハン][サンフンカン]の占める割合も一定程度大きいことが指摘できる。一方高年になると、半濁音化形[サンパク][サンパツ][サンパン][サンフンカン]の占める割合が圧倒的となる(図6～9)。

この「年代差の観点からは、相対的に、若年では非半濁音化形が多く、高年では半濁音化形が多い」という傾向は、「泊・発・班・分間」の「4」においても、すべて相似的に観察される。

一方「匹」においては、「3」に関しては上記の傾向がわずかにみられるが、「4」では観察されない(図10)。

ここで、一般論として、ある1回の調査において年代差が観察された場合の解釈について考えてみる。調査結果としての年代差は現実の

図6 「3泊4日 / 4泊5日」の旅行 [どう言いますか]



言語状況の一断面を示すものだが、その背景にある動きの解釈の可能性としては、おもに次の2つの流れが想定される。もちろん現実はこの2つのどちらかのみに基づくというような単純なものではなく、多くの場合には複合的である。

- ① 言語変化が進行中であり、いずれは現時点での若者のことばが全体としても主流になる
- ② 言語変化が進行しているのではなく、現時点で若者が使っていることばが将来「取り替えられる・回帰する」ことが想定される

②の例としては、単なる「若者特有の流行語」や、若いころに「ら抜きことば」を肯定していた人が加齢とともに否定に転じたりする可能性があることが挙げられる。「見れる・食べれる」などの「ら抜きことば」は、「見られる・食べられる」とするべきである」という「社会に流通している規範意識」によって、言語変化の進行にブレーキがかけられているのである（ただし「ら抜きことば」の場合、規範意識はあくまで「ブレーキ」であって、言語変化も現実には進行中である）（塩田雄大（2022b））。

図7 ミサイルが [3発 / 4発] 発射された
【どう言いますか】

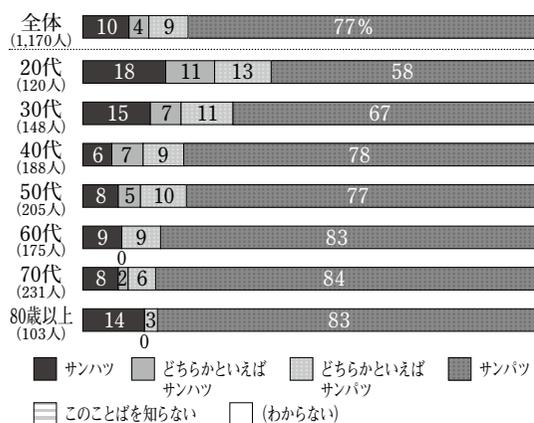


図8 [3班 / 4班] に分かれて発表をおこなう
【どう言いますか】

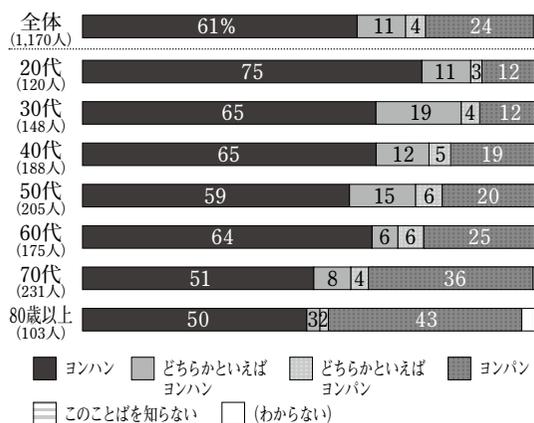
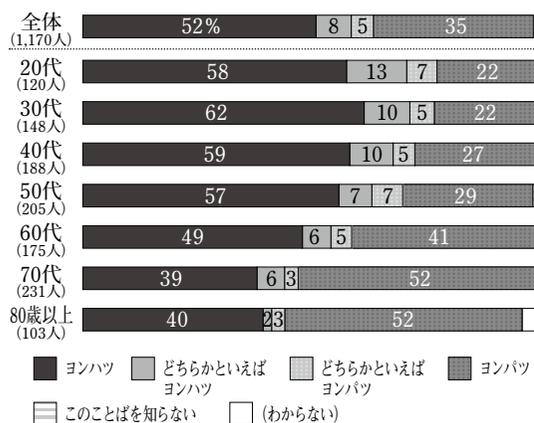
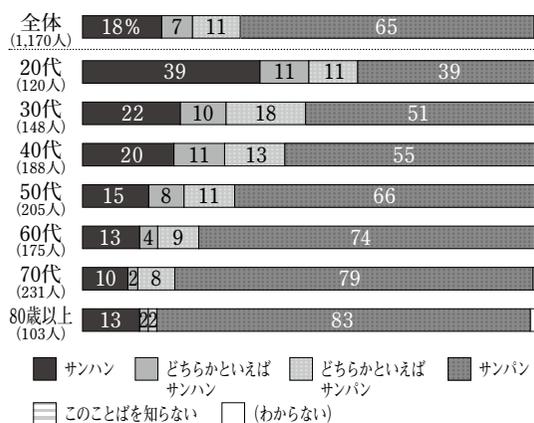
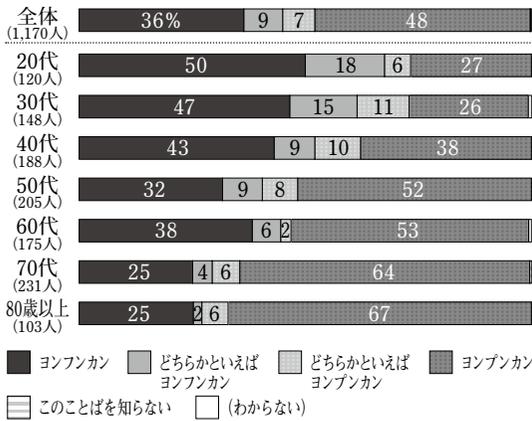
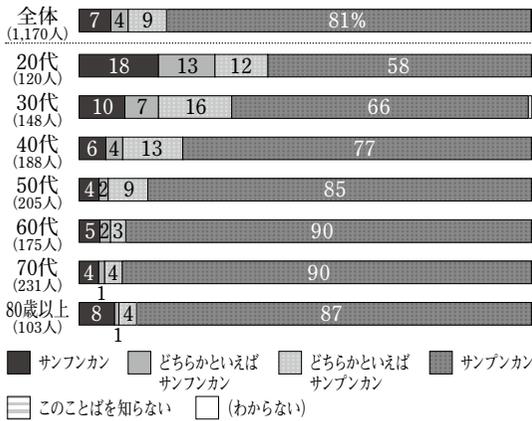


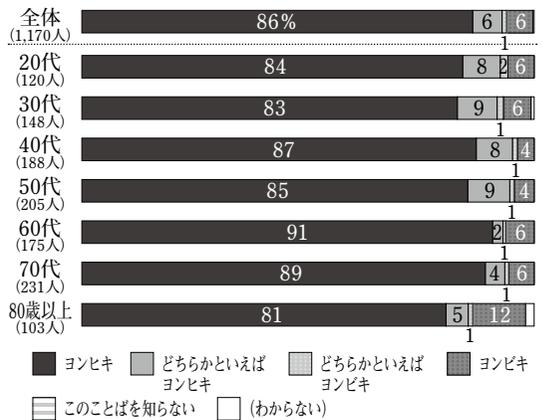
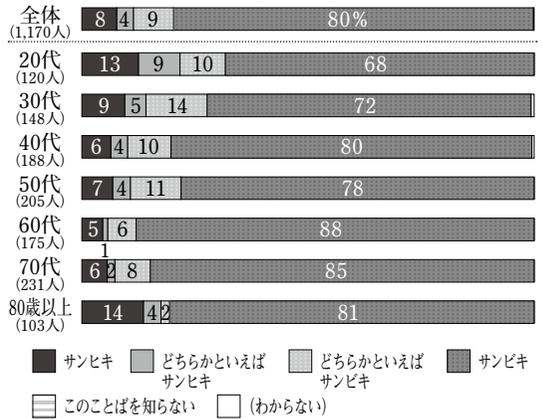
図9 そのまま〔3分間 / 4分間〕お待ちください
〔どう言いますか〕



今回取り扱っている「泊・発・班・分間」に関しては、②の流れはあまり想定しにくい。「ヨンハク」などの非半濁音化形に対して「「ヨンパク」とするべきである」という考えは、ほんの一部の人には意識されているのかもしれないが、それほど多くの人を感じていることではないと思われるからである。

つまり、この年代分布は、「半濁音化形から非半濁音化形へ」という、静かに進行しつつある言語変化の反映としてとらえることができるものと考えられる。

図10 〔3匹 / 4匹〕の子犬〔どう言いますか〕



1.3.3 属性別傾向 (地域別)

～「半濁音化しない」は東日本で先行する～
 「泊・発・班・分間」の回答に関して回答者の在住地別（「東日本」は東海地方を含み、「西日本」は北陸地方を含む）に集計したところ、非半濁音化形の回答は東日本のほうが多く（例外は「サンハン」「ヨンフンカン」のみ⁴⁾）（図11）、半濁音化形の回答は西日本のほうが多い（例外なし）（図12）ことが明らかになった。

さきほど1.3.2で、全体として「半濁音化形から非半濁音化形へ」という言語変化が想定されることを示した。ここから、この地域別の

分布（非半濁音化形は東日本に多い）は、「〔半濁音化形から非半濁音化形へ〕という言語変化が、全体的に「西日本よりも東日本で先行して進みつつある」という構図として解釈することが可能である。

図11 非半濁音化形の回答（地域別）

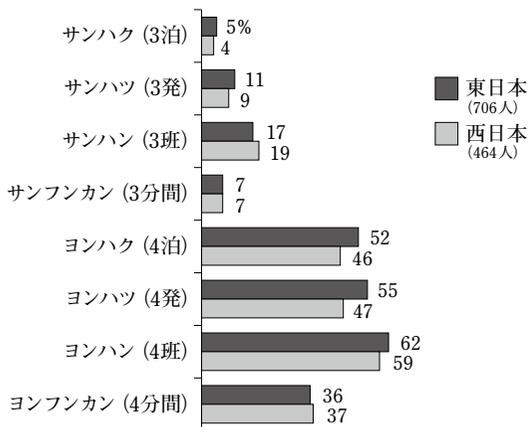
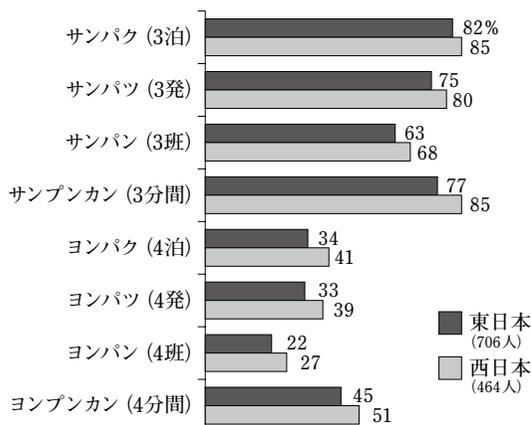


図12 半濁音化形の回答（地域別）



1.4 ほかの調査結果から

～「半濁音化しない」は

ほかの語でも進む～

「泊・発・班・分間」に関する調査結果から、非半濁音化の回答の傾向として、①「3」よりも「4」のほうが非半濁音化の回答が多い、②非半濁音化の回答は若年になるほど多い、ということを見た。この傾向は、これ以外のハ行の漢語助数詞「波・敗・分」に関しておこなった別の調査⁵⁾の結果においても、①②ともに同様に観察された（図13～15）。

図13 新型コロナウイルス感染の〔第3波 / 第4波〕
【2023.8調査】 [どう言いますか]

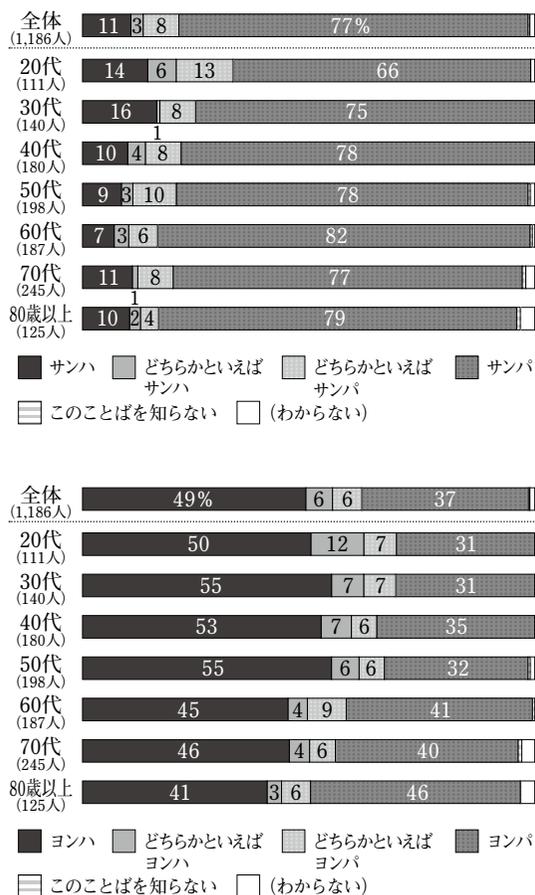
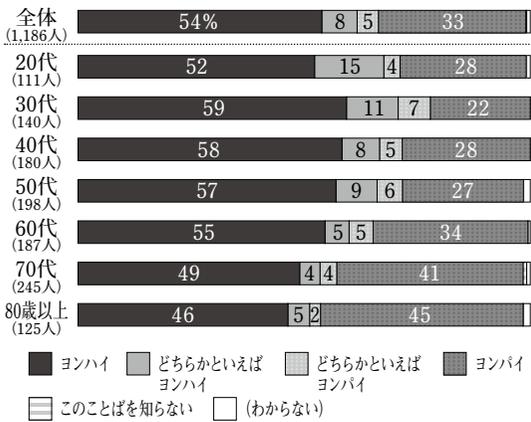
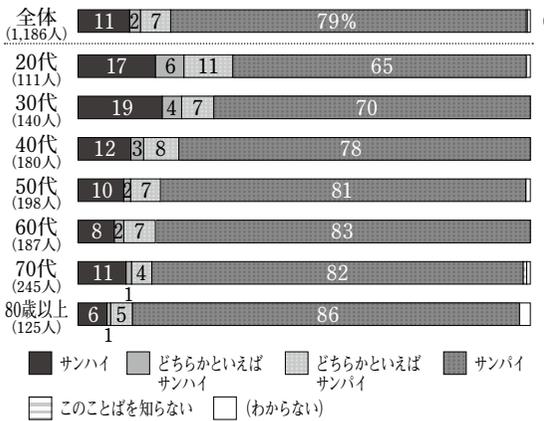


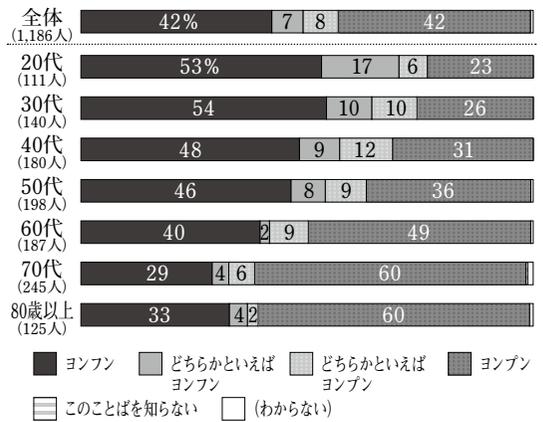
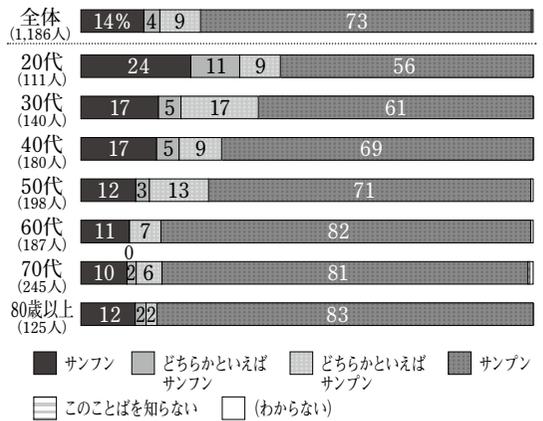
図14 [3敗 / 4敗] 【2023.8調査】 [どう言いますか]



非半濁音化の傾向が、ハ行の漢語助数詞全般において同時に進みつつあるようである。

なお、前記の「①「3」よりも「4」のほうが非半濁音化の回答が多い」に関しては、連濁(有声音化)でも同様の傾向がある。たとえば、「サンガイ～ヨンカイ(階)」「サンゲン～ヨンケン(軒)」「サンゼン～ヨンセン(千)」「サンゾク(サンソクとも)～ヨンソク(足)」「サンバイ～ヨンハイ(杯)」「サンビキ(3匹)～ヨンヒキ(匹)」「サンビヤク～ヨンヒヤク(百)」「サンビョー～ヨンビョー(票)」「サンボン～ヨンホン(4本)」などである。

図15 [3分 / 4分] 【2023.8調査】 [どう言いますか]



2. 語形のゆれについて

2.1 「得る」をめぐる変遷

まず、「得る(うる～える)」という動詞の成り立ちについて考えてみる。

古い文語においては、終止形が「う」という形を取り、次のような活用(下二段活用)を示していた(表2)。

表2 伝統的な文語における「得^う」の活用

	未然	連用	終止	連体	已然	命令
得	え	え	う	うる	うれ	えよ

これがある時期に、それまでの連体形が、終止形の位置でも使われるようになった。これは動詞全体に起こった「終止形と連体形の合一化」と呼ばれる現象で、坪井美樹（2018）によれば古代末から中世にかけて発生したものである。

これによって、この動詞の活用体系は次のようになった（表3）。

表3 新しい文語における「うる」の活用

	未然	連用	終止	連体	已然	命令
得	え	え	うる	うる	うれ	えよ

さらにその後、「二段活用の一段化」と呼ばれる現象が起こった。これも動詞全体に起こったもので、坪井美樹（2018）によれば中世末から近世初にかけて発生したものである。

これによって、現代口語の「得る」（下一段活用）に至った（表4）。

表4 現代口語における「得る」の活用

	未然	連用	終止	連体	已然	命令
得	え	え	える	える	えれ	えよ・えろ

現代では「うる」と「える」の両方が用いられているが、「うる」は【「新しい文語」の語形を現代語の中に用いたもの】（以降「新文語形」とする）であり、一方「える」は【現代口語での語形】（以降「現代口語形」とする）であると解釈することができる。

なお「ありうる～ありえる」および「うる～える」に関し、2023年9月の放送用語委員会（第1466回）において、下記のとおり過去の決定の再確認がなされた。

「ありうる・ありえる」:

1. アリウル
2. アリエル

「得る」:

- ウル（文語的）
- エル（口語的）

〔1376回放送用語委員会（2013.12.6）提案・1379回放送用語委員会（2014.2.28）決定〕

（塩田雄大（2023））

2.2 「あり得る」「起こり得る」の調査結果

2.2.1 全体傾向

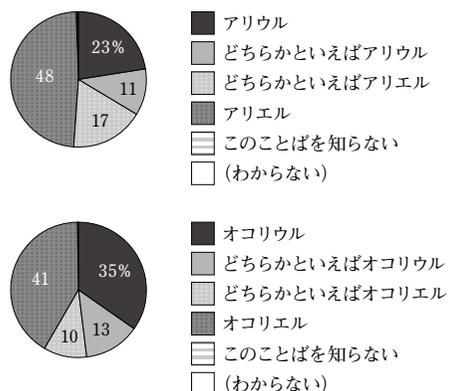
～「あり得る」と「起こり得る」では

傾向が異なる～

まず全体の結果としては、「あり得る」では現代口語形の「アリエル」が主流であった。それに対して、「起こり得る」では新文語形「オコリウル」と現代口語形「オコリエル」が同程度であった（図16）。

いずれも複合動詞「あり得る」「起こり得る」の後項として「得る」が用いられている例であるが、新文語形・現代口語形をめぐる様相はそれぞれの語によって異なっていることがわかる。

図16 雨の場合は、遠足の中止もあり得る / 誰にでも起こり得る問題です
（どう言いますか）



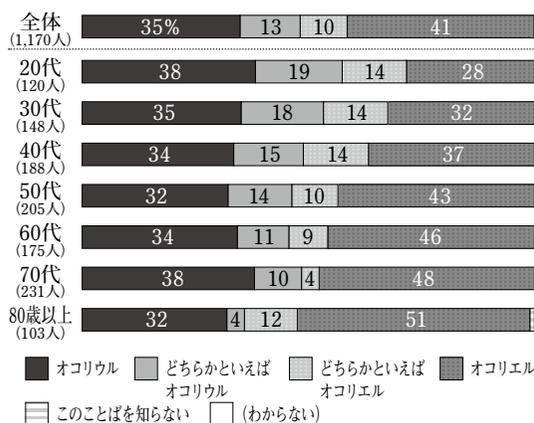
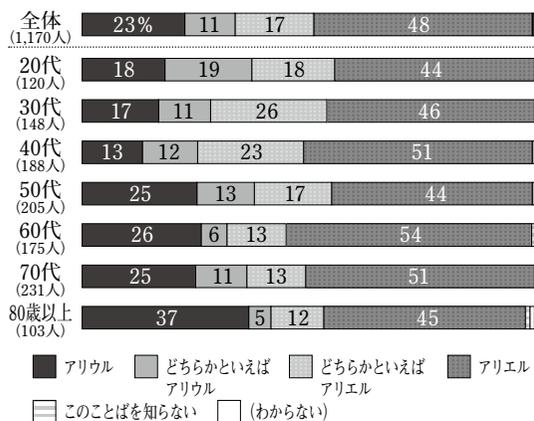
2.2.2 属性別傾向 (年代別)

～若年層では新文語形 [オコリウル] に回帰～

次に、年代別に見てみる。「あり得る」に関しては、一定の年代的傾向がみられない。一方「起こり得る」では、年代が若くなるにつれて現代口語形 [オコリエル] の回答が少なくなる傾向がみられる (図17)。これは、新文語形 [オコリウル] への回帰が起こっているものと見るができるだろう。

なお、この調査結果でみられる傾向 (「あり得る」では現代口語形 [アリエル] がかなり多い一方で、「起こり得る」では新文語形 [オコ

図17 雨の場合は、遠足の中止もあり得る / 誰にでも起こり得る問題です [どう言いますか]



リウル] もある程度の割合を占めており、若年ではその割合がさらに大きいこと)は、現代のSNSでの出現状況を概観した結果とも矛盾しない形になっている。X (旧 Twitter) での出現数を見たところ (Yahoo! リアルタイム検索による検索 [2023.7.16-8.14の30日間]),

【ありうる (8,057件) < ありえる (43,507件)】であるのに対して、

【起こりうる (6,838件) > 起こりえる (655件)】のようになっていた (塩田雄大 (2023))。SNS上でのことばは、比較的若い人たちの現状の一端を反映しているものと思われ、今回の調査結果と符合している。

2.3 「サステ (イ) ナブル」をめぐる現況

sustainableという英語を外来語として日本語に取り込む場合、もとの英語の発音に最も忠実な形としては「サステイナブル」が妥当である。しかし現実には、「イ」を挿入していない「サステナブル」という語形もよく運用されている。また、「イ」ではなく小字の「イ」を用いた「サスティナブル」という語形 (これはもとの英語の発音とはかけ離れている) も、実際にある程度使われている。

原語 (英語) で [-ei] を含む語が日本語に外来語として取り入れられる際に、ふつうは「イ」が落ちない例と、ふつう「イ」が落ちる例として、たとえば次のようなものが挙げられる。

▼ふつう「イ」が落ちない例

アゲイン エンターテインメント カゼイン
 キャピタルゲイン スペイン ドメイン
 トレイン プレイン ペインクリニック
 ペイント プロテイン メイン リフレイン
 レインコート レインボー ロメインレタス
 エンターテイナー

▼ふつう「イ」が落ちる例

アゲ(イ)ンスト コンテ(イ)ナー
ステ(イ)ンドグラス ステ(イ)ンレス
セ(イ)ントバーナード チェ(イ)ンジ
メ(イ)ンテナンス レ(イ)ンジャー

(塩田雄大(2023)から抜粋)

これを見ると、「ふつう「イ」が落ちない例」と「ふつう「イ」が落ちる例」との間に、それぞれの語における音韻構成上の違いがあることが見て取れる。

「ふつう「イ」が落ちない例」のほうは、エ列音に続く「…イン」(あるいは「…イナ」)にあたる部分が、語末(あるいは形態素末)に位置しているものが多い(例外は「エンターテインメント」「エンターティナー」)。「…イン」の部分に下線を施すと、「アゲイン」「スペイン」となっており、「…イン」のあとに別の音が連なっていない〔=語末〕。また「レインコート」「ロメインレタス」などは「…イン」のあとに別の音が連なっているものの、これは「レイン+コート」「ロメイン+レタス」と解釈されることから、「…イン」は「形態素末」に位置していると言える。

それに対して「ふつう「イ」が落ちる例」のほうは、エ列音に続く「…(イ)ン」(あるいは「…イナ」)の位置が、例外なく「語中」(あるいは「形態素中」)である。「アゲ(イ)ンスト」「コンテ(イ)ナー」「ステ(イ)ンドグラス」「ステ(イ)ンレス」などを見ると「…(イ)ン」「…イナ」のあとにそれぞれ別の音が連なっており、すべて「語中」である(「ステ(イ)ンレス」は英語の知識を援用すれば“stain(染み)+less(ない)”と分析することも可能ではある(この場合「形態素末」となる)が、多くの日本語母語話者にこのような語構成意識はないものと思われる)。

また「エンターテインメント」「エンターティナー」について「ふつう「イ」が落ちない例」に分類してあるが(前者には「エンターテインメント」という撥音脱落形もしばしば見られるが、本論からやや外れる問題なのでここでは割愛する)、実はこれは「ゆれ」がある程度大きいことを意識しておく必要がある。たとえば「エンターティナー」「エンターテナー」「エンターティナー」の3語形に関して、2.2.2と同様(2023.8.1-8.30の30日間)にXでの出現状況を見てみたところ、「イ」が落ちない「エンターティナー」が18,281件と圧倒的に多く現れていた一方で、「イ」が落ちた「エンターテナー」が314件、また小字「イ」を用いた「エンターティナー」は1,142件となっていた(塩田雄大(2023))。

2.4 「サステ(イ)ナブル」の調査結果

2.4.1 全体傾向

～4分の1が「このことばを知らない」～

今回、「サステナブル」「サステイナブル」「サスティナブル」の3語形について、それぞれ尋ねる形式で調査を実施した。

全体の概況(図18～20)としては、「このことばを知らない」という回答が多く、全体において4分の1程度を占めている。これをふまえたうえで、支持率〔=「このように発音するし書く」〕においては「サスティナブル」(31%)と「サステナブル」(26%)が比較的多く、一方で英語原音に最も忠実である「サステイナブル」(11%)は少なかった。この「サステイナブル」では、「別の発音・書き方をする」という回答(27%)が多かった。

なお、この調査結果でみられる傾向(「サスティナブル」と「サステナブル」の支持が多く、「サステイナブル」の支持が少ないこと)は、現

図18 「サステナブル」のように…

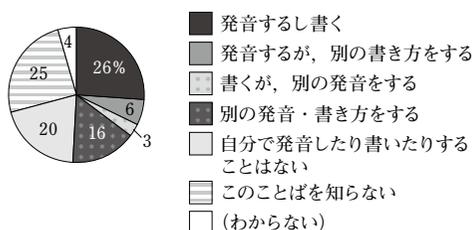


図19 「サステイナブル」のように…

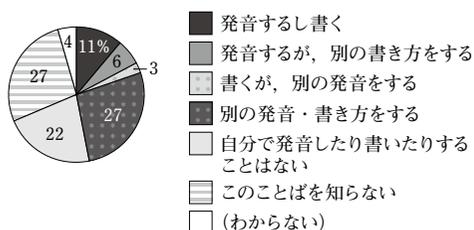
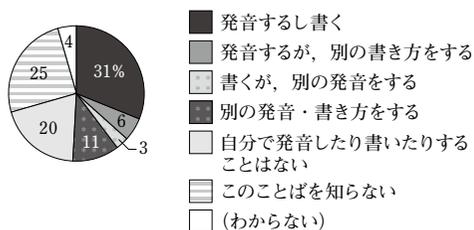


図20 「サステイナブル」のように…



代のSNSでの出現状況を概観した結果とも矛盾しない。2.2.2と同様(2023.7.16-8.14)にXでの出現状況を見たところ、出現度数順に「①サステナブル(6,574件), ②サステイナブル(2,019件), ③サステイナブル(485件)」のようになっていた(塩田雄大(2023))。現在のSNS上においても、英語原音に最も忠実である語形「サステイナブル」は、少数派になっていることがわかる。

2.4.2 属性別傾向(年代別)

～若年層に支持されない「サステイナブル」～

次に、年代別に見てみる(図21～23)。「このことばを知らない」という回答が特に高齢層において多く、70代で42～44%, 80歳以上では65～66%であった。これをふまえたうえで、特に若年において、「サステイナブル」と

図21 「サステナブル」のように…

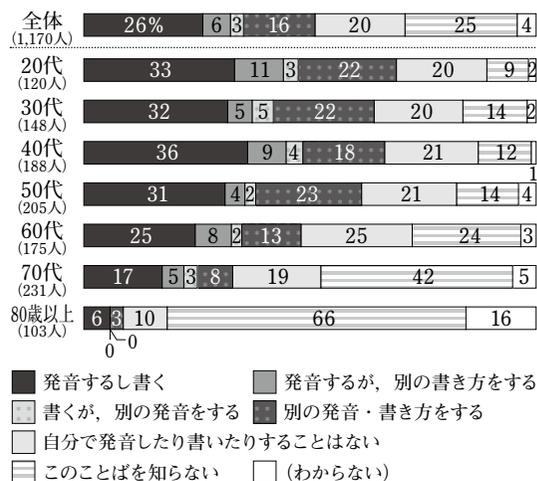


図22 「サステイナブル」のように…

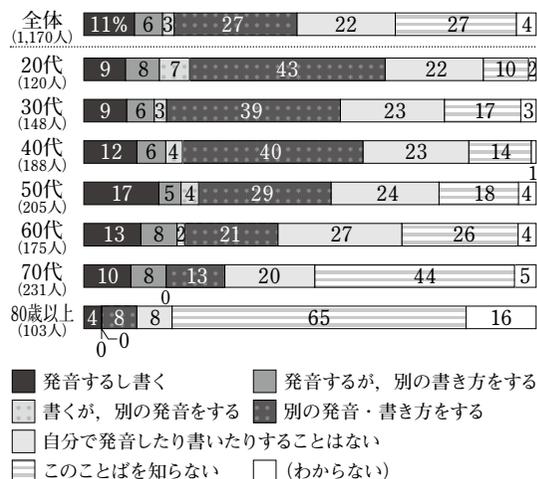
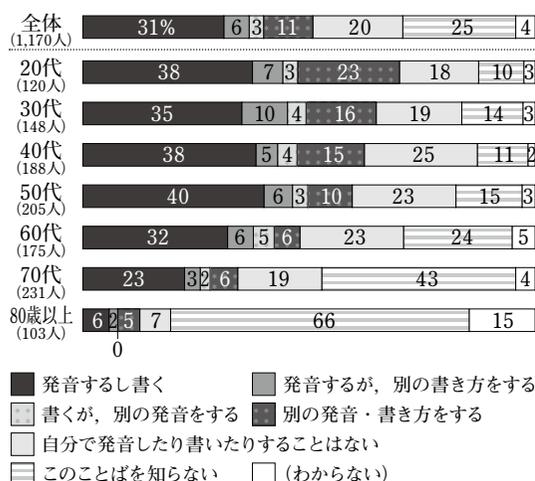


図23 「サステナブル」のように…



は別の発音・書き方をする」という回答の占める割合が相対的に多い傾向がみられる。

こうした年代別分布から、今後この語が一般により広く認知されていくのにつれて、英語の原音に忠実な「サステイナブル」が主流な語形となっていく可能性は、おそらく低いものと予想される。

2.4.3 ほかの調査結果から

～この2年間で認知度は高くなった～

2021年2月に別形式で実施した調査⁶⁾の結果では、「このことばを知らない」という回答が42%を占めていた(図24)。調査形式は異なるものの、このときから2年たった2023年の調査では「このことばを知らない」が25～27%程度に減少していることから、この語が一般に知られている割合は、現在ではかなり高まっていることがわかる。

また、2021年の調査のときには「サステナブル」よりも、英語原音に最も忠実である語形「サステイナブル」のほうが支持率が高かった

図24 「[(A)サステイナブル/(B)サステナブル]とは、「持続可能な」という意味です」【2021.2調査】



(塩田雄大(2022a)掲載の数値を四捨五入して整数化し図化)

のであるが(「サステイナブル」は調査していない)、この語が一般に広まるのにつれて、状況が異なってきたようである。

3. 男子と女子の敬称

3.1 背景とねらい

未成年の子どもによく使われる敬称として、「さん」「くん(君)」「ちゃん」がある。敬称は、名前のあとに付いて、その相手に対する敬意や親しみを表すものである。どの敬称を使うかは、相手の年齢や性別のほか、名前を呼ぶのがオフィシャルな空間かどうかなど場面に応じて変わり、最もしっくりくる敬称もそのつど異なる。

今、教育現場では、男女平等や社会的性差にとらわれないジェンダーフリーの観点から、児童や生徒の名簿を性別で分けない「男女混合名簿」が広がり、男の子も女の子も「さん」で呼ぼうという取り組みが進んでいる。教育現場が変化する中、男の子を「くん」、女の子を「さん」で呼び分けることに対する私たちの意識は、どれぐらい変化しているのだろうか。

本稿では、事件に巻き込まれた子どもの名前をテレビやラジオで伝える場合、男の子と女

の子の敬称として「さん」「くん」「ちゃん」のどれが最もふさわしいと思うかについて調査し、子どもの敬称に対する人々の意識がどのように変化しているかを調べた。なお、男子の敬称については、2015年に同様の調査(山下・井上(2016))をおこなっている。

3.2 現代社会における敬称の使い方

子どもの敬称について考える前に、「さん」「くん」「ちゃん」が現代社会においてどのような使い方をされているか見ていきたい。

まず「さん」は、相手が男性か女性か、目上か目下かに関係なく使うことができる最も一般的な敬称である。

「ちゃん」は、「さん」が変化したことばである。大人が子どもを呼ぶときや、子どもどうしで呼びあうとき、恋人との会話など、親しみを込めて相手と呼ぶときや、相手の愛らしさを強調するときに使われる。この「ちゃん」も「さん」と同様、性別に関係なく使うことができる。

これに対して、「くん」は、議会で発言者に呼びかけるときや、会社などで部下を呼ぶときには女性にも使われるが、それらを除けばもっぱら男性(男子)に対して使われることばである。現代においては、友だちなど自分と同等、または目下の人を呼ぶ場合に使い、軽い敬意や親しみを表す。また、「くん」は、「これからの敬語」(国語審議会(1952))⁷⁾では、「男子学生の用語」とされ、かつては女性が男性を「くん」付けで呼ぶことに否定的な意見もあった⁸⁾が、今では女性による「くん」付けは一般的になっている。

3.3 新聞・通信社における子どもの敬称の使い方

新聞社や通信社で子どもの名前を伝える場合、小学校入学前の幼い子どもには「ちゃん」が使われることが多い。

小学生については、原則として男の子は「くん」、女の子は「さん」と性別で呼び分けている社があるほか、記事の内容に応じて、男の子に「さん」も「くん」も使っている社もある。

また、かつては「〇〇ちゃん事件」のように男子小学生に「ちゃん」を使うことがあったが、最近ではそのような使い方はほとんどみられない。

一方で、教育現場において男の子も女の子も呼び方を「さん」に統一する動きを受け、小学生の男の子の敬称を「くん」から「さん」に変更するなど、小学生の呼び名を「さん」に統一する社が増えつつある。

このうち、毎日新聞は、2016年春から小学校入学後の男子について、「くん」以外の敬称では大きな違和感が出てしまう場合を除いて、原則として敬称に「さん」を使うよう取り決めを変更した。この理由について、毎日新聞は校閲記者のコラム(宮城理志(2020))の中で、「これはジェンダー的な公正さや、望まない性に基づく敬称に苦痛を感じる子への配慮から、学校現場で「さん」に統一する動きが顕著なことなどを踏まえたものです。また「君」には「同等以下の者を呼ぶ時」(新明解国語辞典第7版)のように上からの言い方のような印象があることも判断の理由です」と説明している。

また、地方紙においても、京都新聞が2022年2月に小学生の呼称を「男女とも「さん」とすることに改め」(円城得之(2022))るなど、性別による敬称の呼び分けを見直す動きが広がっている。

3.4 NHKにおける子どもの敬称の使い方

NHKにおける子どもの敬称の扱いについては、2023年6月に開かれた第1465回放送用語委員会で意見交換をおこなっているので参照されたい(中島・藤井(2023))。

NHKでは、小学生の男の子に対して「さん」を使うことが増えつつあるが、「くん」も使われている。どちらの敬称を使うかは、番組ごと、または伝える内容に応じて放送現場が個別に判断しているのが現状である。

また、小学校入学前の男の子に対しては、「ちゃん」が使われることが多いが、「さん」または「くん」が使われることもある。番組やニュースの担当者は、「さん」「くん」「ちゃん」の3つのうちから1つの敬称を選ぶ必要があり、担当者からは「5歳ぐらいの男の子に「ちゃん」を使うのは、やや幼すぎるような印象がある」「幼い子どもに「さん」を使うと、よそよそしく感じるので悩む」といった声を聞くことがある。

3.5 男子の敬称についての先行調査

NHKでは、放送における男子の敬称について2002年と2015年に調査をおこなっている。なお、調査結果は、2002年の結果も含めて2015年の「日本語のゆれに関する調査」の中で報告している(山下・井上(2016)、山下(2017))。

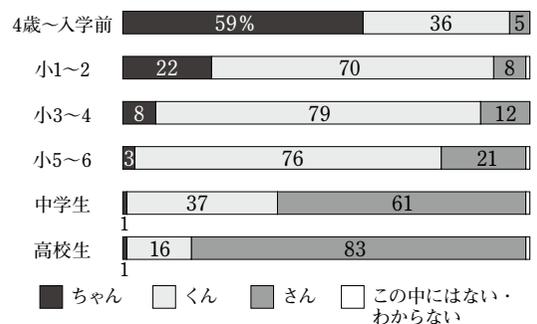
このうち、2002年の調査では、「警察では○○○○君が事件に巻き込まれたと見て、捜査しています」という文と、「○○○○君はこの夏、自転車で日本縦断をしました」という文について、それぞれ○○○○君はいくつくらいまでの人だと思うか聞いた。その結果、事件の被害者として名前が出る前者の文では、「中学

生まで」という回答が最も多かったのに対して、日常の話題である後者の文では「高校生まで」という回答が最も多く、事件の被害者として子どもの名前を伝える場合、「くん」が許容される年齢の上限がやや低いことがわかった。

また、2015年の調査では、男の子が事件に巻き込まれたというニュースをアナウンサーが読み上げる場合、男の子の名前に付ける敬称として、「ちゃん」「くん」「さん」のどれが最もふさわしいか聞いている。なお、敬称を付ける男の子の年齢は6つの年齢区分(4歳～小学校入学前、小学1～2年生、小学3～4年生、小学5～6年生、中学生、高校生)で調べた。

その結果、図25にあるように、小学校入学前は5割以上が「ちゃん」を支持し、小学生は全学年を通じて「くん」が7割以上の支持を集めた。一方、中学生および高校生は「さん」が最も多かった。また、男子の年齢が上がるのに応じて、「ちゃん」の支持が減り、「さん」の支持が増えるという傾向がみられた。

図25 事件報道での男子の敬称【2015年3月】(全体)



3.6 今回の調査内容

今回の調査でも、2015年と同様に、「警察では〇〇〇〇（ちゃん・くん・さん）が事件に巻き込まれたとみて、捜査しています」という文をアナウンサーが読み上げる場合、男の子の名前に付ける敬称は「ちゃん・くん・さん」のどれが最もふさわしいと思うか、6つの年齢区分で聞いた。

また、新たに女の子についても、4つの年齢区分（4歳～小学校入学前、小学1～2年生、小学3～4年生、小学5～6年生）で、同様の調査をおこなった。

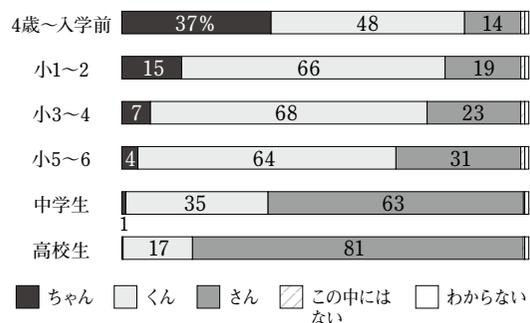
加えて、テレビやラジオのニュースでアナウンサーが、小学生の男の子を「くん」、女の子を「さん」と性別によって呼び分けることについてどう思うかについても調査を実施した。

3.7 調査結果と考察

3.7.1 男子の敬称についての調査結果

小学校入学前では5割近くの人が「くん」が最もふさわしいと答えたほか、小学生を通じて6割以上の人が「くん」を支持した。また中学生で「さん」が「くん」を上回り、「くん」の支持は高校生では2割以下となっている（図26）。

図26 事件報道での男子の敬称（全体）



「ちゃん」は、小学校入学前では4割近くの人が最もふさわしいと答えたが、入学後は大きく減り、小学1～2年生の「ちゃん」の支持は15%だった。

「さん」は、小学校入学前は14%だが、年齢が上がるにつれて増え、小学5～6年生では3割、中学生では6割、高校生では8割の人が最もふさわしいと答えた。

また、20代を若年層、30～40代を中年層、50歳以上を高年層と分けて比べると、中年層は、ほとんどの年齢区分において「さん」の割合が最も高かった（表5）。一方、高年層では、いずれの年齢区分でも「さん」の割合が低く、小学3～4年生までは「ちゃん」、小学5～6年生は「ちゃん」と「くん」、中学生と高校生では「くん」の割合が高い傾向がみられた。

全体として見ると、前回（2015年）の調査に比べて、小学校入学前、また小学生を通じて「さん」の支持が増加していた。また、前回の調査で小学校入学前では最も高い支持を集めた「ちゃん」は大きく減り、「くん」は小学校入学前では増えたが、入学後は減っている。

このことから、事件報道などの改まった場においては、若い男の子であっても、愛らしさを

表5 「さん」を支持する人の割合

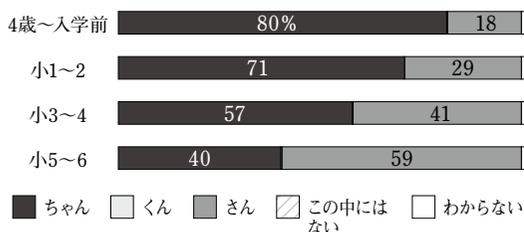
	若年層 (20～29歳) (120人)	中年層 (30～49歳) (336人)	高年層 (50歳以上) (714人)
4歳～入学前	17	20	11
小1～2	22	27	14
小3～4	26	31	19
小5～6	35	38	26
中学生	73	73	57
高校生	87	88	77

強調する「ちゃん」よりも、「さん」や「くん」を使うほうがふさわしいと考える人が増えていると考えられる。

3.7.2 女子の敬称についての調査結果

4歳～小学校入学前で8割の人が「ちゃん」を支持した(図27)。しかし、年齢が上がるにつれて、「ちゃん」の支持は徐々に減り、小学5～6年生で、「さん」の支持が「ちゃん」を上回っている。ただ、それでも小学5～6年生における「ちゃん」の支持は4割あり、男の子と比べ、女の子の「ちゃん」は比較的上の年齢まで許容されていることがわかる。なお「くん」はどの区分においても1%未満であった。

図27 事件報道での女子の敬称(全体)



3.7.3 男女の呼び分けについての調査結果

小学生の男の子を「くん」、小学生の女の子を「さん」と呼び分けることについてどう思っているかを尋ねた。質問と結果は以下のとおりである。

【質問】

テレビやラジオのニュースで、アナウンサーが、フルネーム(名字と名前)で小学生の男の子を「〇〇くん」、女の子を「〇〇さん」と呼ぶことについてどう思いますか。

1. 小学生の場合、男の子も女の子も「さん」に統一するのがよい
2. このとおりでよい(「さん」に統一しなくてよい)
3. どちらともいえない

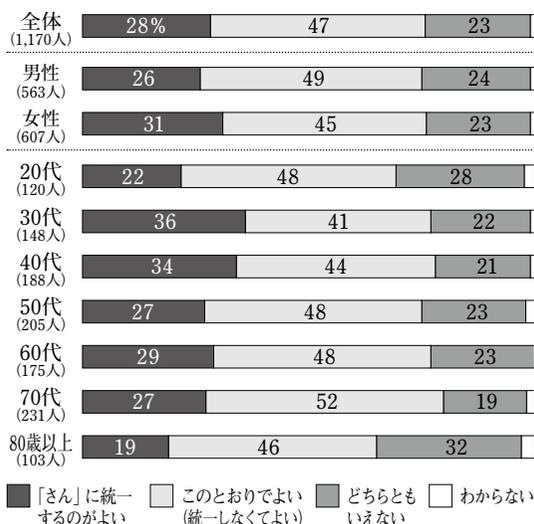
【調査結果】

図28に示したように、全体では、「このとおりでよい(「さん」に統一しなくてよい)」と答えた人が47%で半数近かった。一方で、「「さん」に統一するのがよい」と答えた人は3割近いほか、「どちらともいえない」と答えた人も2割あまりいた。

男女別で見ると、「「さん」に統一するのがよい」と答えた人の割合は、男性よりも女性のほうがやや高かった。

また、世代別に見ると、「「さん」に統一するのがよい」と答えた人は、30代が36%と最も高く、80歳以上が19%で最も低かった。また、20代は、男の子も女の子も「さん」で呼ぶという教育現場の取り組みの影響を受けている人

図28 「さん」「くん」で呼び分けることについての調査



がほかの年代よりも多いと考えられるが、「さん」に統一するのがよい」と答えた人は22%で、全体の平均よりも低かった。

図29は、「さん」に統一するのがよい」と回答した人の割合を、男女別・年代別に示したものである。「さん」に統一するのがよい」と答えた30代を男女別に見ると、男性が27%であったのに対して、女性は51%で、支持する人が半数を超えた。30代以外の年代においても、女性のほうが「さん」の統一に対する支持が高いという傾向はあるが、30代の男女ほどの差はみられない。

30代の女性で「さん」への統一を支持する人が多いことについてははっきりとした理由はわからない。ただ、平均初婚年齢は妻が29.7歳⁹⁾であることを考えると、30代は職場や家庭において、女性だからと期待される社会的な役割やその壁に直面しやすい年代とも言える。このため、女の子を「さん」、男の子を「くん」と呼び分けることに対しても意識的になる人が多くなっているのかもしれない。

また小学校に通うような年齢の子どもがいる

人の場合、自分の子どもが学校でどういう敬称で呼ばれているかという、親としての体験を通じて、男の子の「さん」付けが浸透している可能性もある。

今回の結果からは、男の子の敬称として「さん」が最もふさわしいと考える人が増えていることや、30代の女性で「さん」に統一するのがよいと考えている人が多いことがわかった。しかし、子どもがいるかどうか回答に影響しているかなど、その要因は解明できていない。また、前回と今回の調査結果を比較すると、4歳から小学校入学前の男の子の「ちゃん」が大幅に減り「くん」と「さん」が増えたほか、小学1～2年の男の子でも「ちゃん」が減り「さん」が増えているが、男の子に対する「ちゃん」付けはどういう要因から減っているのだろうか。子どもたちの名前に付ける敬称の変化について、さまざまな観点から今後も調査を続けていきたい。

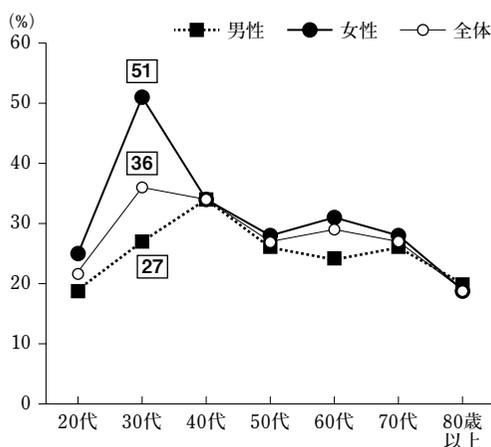
4. 名詞の動詞化 ～「前倒す」「先延ばす」

4.1 名詞の動詞化

日本語において、名詞が変化して、動詞として使われるようになることはしばしばある。たとえば、「名詞」、または「名詞の一部」に「る」を付ける形(例：皮肉る、サボる)や、名詞に「する」を付ける形(例：料理する、努力する)などがあるが、それ以外にも、もともと動的な要素を含む名詞が変化し、動詞として使われるようになることがある。

佐々木香織(2013)は、名詞の「ひた走り」「ひた隠し」が、動詞の「ひた走る」「ひた隠す」にそれぞれ変化したことなどを例に挙げ、動

図29 「さん」に統一するのがよい(男女・年代別)



詞から変化した「転成名詞」(動詞の連用形)を後部の要素として含む複合名詞の場合、再び動詞としての活用を持ちうることを示した。佐々木は、こうした動詞が生まれる動機として、「経済性」の原理、つまりできるだけ運用に負担がかからない語形にしたいという欲求と、「創造性」の原理、できるだけ新しく、目立つ形にしたいという欲求の両方がある」と述べている。

放送においても、ときどきこうした名詞から変化した動詞を見かけることがあるが、このうち、名詞の「前倒し」が変化したと考えられる動詞「前倒す」、「先延ばし」という名詞が変化したと考えられる動詞「先延ばす」についてそれぞれ調査した。

4.2 「前倒す」についての調査

まず、「前倒し」は、「予定を早めて行うこと」、つまり「予定を前に倒す」ことを意味する名詞である。『岩波国語辞典』(第8版(2019)岩波書店)は「前倒し」について『繰り上げ』でも済むのに、1973年ごろに官庁俗語として現れたのが、広まった語」という説明を載せている。動詞形としては「前倒しする」という形を持つが、「前倒す」という形の動詞も使われている。ただ、「前倒す」は『明鏡国語辞典』(第3版(2021)大修館書店)が「前倒し」の項で「前倒す」という動詞では使わない」と書いているほか、「前倒す」を載せていない辞書も多い。

放送では、「前倒しにして [=前倒し+に+して(←する)]」という名詞形か、「前倒しして [=前倒し+して(←する)]」という「する」が付く形の動詞が使われることがほとんどだが、ときどき「ワクチン接種を前倒して始める」など「前倒す」の形の動詞が使われることがある。

この「前倒す」がどの程度浸透しているかを調べるため、以下の2つの文について尋ねた。

【質問】

[A] 順調に進んでいるので、計画を前倒しにした。

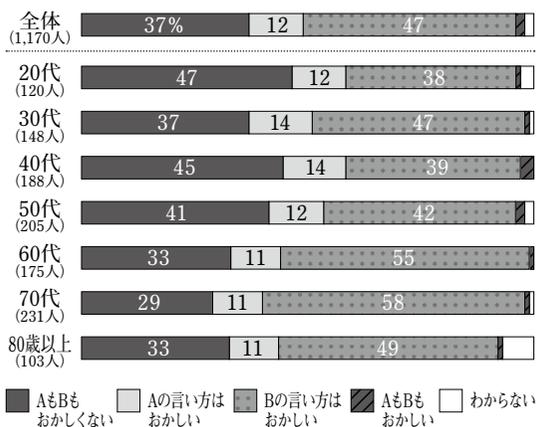
[B] 順調に進んでいるので、計画を前倒した。

1. [A] も [B] もおかしくない
([B] はおかしくない)
2. [A] の言い方はおかしい
([A] はおかしくない)
3. [B] の言い方はおかしい
([A] はおかしくない)
4. [A] も [B] もおかしい

【調査結果】

調査の結果、全体としては、「前倒した」がおかしいと答えた人が47%、「前倒しにした」も「前倒した」もおかしくないとした人が37%だった(図30)。また、「前倒しにした」がおかしいと答えた人も12%いた。20代の若年層で、「前倒しにした」も「前倒した」もおかしくない

図30 「前倒しにした・前倒した」



と、両方の形を認める人の割合が最も高かった。このことから、比較的若い年代を中心に「前倒す」という動詞が一定程度浸透していることがわかる。

4.3 「先延ばす」という動詞

「先延ばし」は「やるべきことや予定を先に延ばすこと」を意味する名詞である。「前倒し」と同じく「計画の先延ばし」などニュースでよく出てくることばであり、「先延ばしする」という形の動詞でも使われる。一方、「先延ばす」という形については、『マスコミ用語担当者がつくった 使える!用字用語辞典』((2020)三省堂)の「先延ばし」の項で、「先延ばす」とはしない」と書いてあるほか、「先延ばす」を載せていない辞書も多い。

【質問】

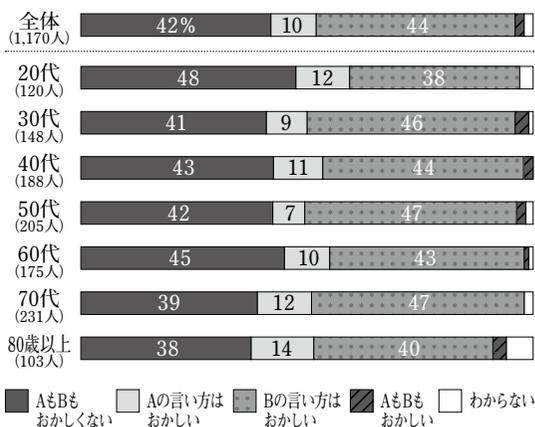
[A] 計画を来年まで先延ばしにする予定だ。
[B] 計画を来年まで先延ばす予定だ。

- [A] も [B] もおかしくない
- [A] の言い方はおかしい
([B] はおかしくない)
- [B] の言い方はおかしい
([A] はおかしくない)
- [A] も [B] もおかしい

【調査結果】

調査の結果、「先延ばす」はおかしいと答えた人は全体で44%だったのに対して、「どちらもおかしくない」と答えた人は42%であった(図31)。年代別に見ても大きな差はなく、「前倒す」に比べて広い世代で浸透しつつあると言える。

図31 「先延ばしにする・先延ばす」



「前倒す」「先延ばす」は、「前倒しにする(前倒しする)」「先延ばしにする(先延ばしする)」よりも字数が少ない。「前倒しにする」「先延ばしにする」ということばが、よく使われているからこそ、それを略した「前倒す」「先延ばす」が生まれたのではないだろうか。まだこうした動詞に違和感を持つ人も多いが、今後、どの程度世の中に浸透していくのか、注目していきたい。

(しおだ たけひろ/なかじま さおり)

注:

- 今回提示するデータおよび分析は、既発表の放送用語委員会の報告と重なるところが大きい(1と2は第1466回放送用語委員会(2023年9月実施(塩田雄大(2023)), 3は第1465回放送用語委員会(2023年6月実施(中島・藤井(2023)))。本項で掲載したグラフに関しては、煩雑を避けるため本文中にはそれぞれ「再掲」の表示を施さなかったが、図1~4, 図6~9, 図13~24は塩田雄大(2023)から、図25, 26, 29は中島・藤井(2023)からの再掲である。
- 前の部分が促音・撥音ではない例として、「ちゃ(茶)+はつ(髪)→ちゃぱつ(茶髪)」が挙げられ

る。これはおそらく、既成語「きんぱつ(金髪)」の「-ぱつ」の部分を取り出して、あらたに「ちゃ(茶)」と組み合わせた、比較的新しい複合語であると思われる。「白髪(はくはつ)・長髪(ちょうはつ)・理髪(りはつ)」などが半濁音化していないことを想起されたい。

- 3) 「一匹」などの例では前部要素末尾の促音化([チ]→[ッ])と後部要素初頭の半濁音化([ヒ]→[ピ])がともに起こっているが、こうしたことも外来語では発生しない。例「いちヘルツ(1ヘルツ)[× いっペルツ]」「いちヘクター(1ヘクター)[× いっペクター]」。ただし、後部要素初頭がもともと半濁音である場合には、前部要素末尾の促音化が起こりうる。例「いちページ, いっページ(1ページ)」「いちパーセント, いっパーセント(1パーセント)」。
- 4) 「サンファンカン」の結果は整数では同値(7%)になっているが、四捨五入を施す前ではやはり東日本のほうが多い。
- 5) 【2023.8 調査】全国1,186人回答〔計画標本数4,000, 有効回答率29.7%〕(塩田雄大(2023))
- 6) 【2021.2 調査】全国1,208人回答〔計画標本数4,000, 有効回答率30.2%〕(塩田雄大(2022a))
- 7) 「これからの敬語」(国語審議会(1952))では、「くん(君)」は男子学生の用語である。それに準じて若い人に対して用いられることもあるが、社会人としての対話には、原則として「さん」を用いる」という記述がある。
- 8) 職場や学校などにおける女性による「くん」付けについての先行研究としては、金丸美美(1997)がある。また、NHK放送文化研究所では、1987年に「女性が、男性を『何々くん』とくん付けで呼ぶのは不愉快だ」という意見についてどう思うか調査をおこなっている(石野・稲垣(1987))。
- 9) 厚生労働省「令和4年(2022)人口動態統計月報年計(概数)」(2023年6月2日公表)

引用文献:

- ・石野博史・稲垣文男(1987)「第1回言語環境調査から 現代人と敬語」『放送研究と調査』37-7
- ・円城得之(2022)「「さん」と「君」」『京都新聞朝刊』(2022.2.17)
- ・金丸美美(1997)「人称代名詞・呼称」井出祥子編『女性語の世界』明治書院
- ・坂本充(2010)「何羽は「なんば」? 「なんわ」? (ことば・言葉・コトバ)」『放送研究と調査』60-6
- ・佐々木香織(2013)「日本語における新しい名詞転成動詞の研究」『北海道大学大学院文学研究科研究論

集』13

- ・塩田雄大(2005)「「3階」はサンガイ? サンカイ? (最近気になる放送用語)」
〔<https://www.nhk.or.jp/bunken/summary/kotoba/term/090.html>〕
- ・塩田雄大(2008)「「農産品」の読み方(最近気になる放送用語)」
〔<https://www.nhk.or.jp/bunken/summary/kotoba/term/120.html>〕
- ・塩田雄大(2022a)「“この報告は、多くの方が読んでいただきたいです”～2021年「日本語のゆれに関する調査」から(1)～」『放送研究と調査』72-1
- ・塩田雄大(2022b)「ふだん“寝れない”と言う人が7割～2021年「日本語のゆれに関する調査」から(2)～」『放送研究と調査』72-2
- ・塩田雄大(2023)「用語の決定 および報告 ～「4泊」「4波」ほか～」『放送研究と調査』73-12
- ・鈴木博(1986)「四の字嫌い考—「四」の音「シ」が「死」に通じることを忌む現象について—」日本語語源研究会編著『語源探求』明治書院
- ・館野由香理(2012)「現代日本漢語におけるハ行子音の半濁音化について」『文学部紀要(文教大学)』26-11
- ・田野村忠温(1990)「現代日本語の数詞と助数詞—形態の整理と実態調査—」『奈良大学紀要』18
- ・田端敏幸(2010)「数詞「三」と「四」について」大島弘子ほか編『漢語の言語学』くろしお出版
- ・坪井美樹(2018)「活用」『日本語学大辞典』東京堂出版
- ・中島沙織・藤井まどか(2023)「子どもの敬称(さん・くん・ちゃん)意味の解釈がわかる語の扱いについて〔意見交換(放送用語委員会)〕」『放送研究と調査』73-9
- ・肥爪周二(2014)「半濁音」『日本語大事典(下)』朝倉書店
- ・方言研究ゼミナール編(1996)『方言資料叢刊 6—方言助数詞の研究—』
- ・宮城理志(2020)「「君」から「さん」へ 男子児童・生徒の呼び方(毎日ことばplus)」(2020.3.21)
<https://salon.mainichi-kotoba.jp/archives/52589>
(2023.10.31閲覧)
- ・山下洋子(2017)「「ちゃん/君/さん」動物が「死亡する/亡くなる」について(放送用語委員会)」『放送研究と調査』67-11
- ・山下洋子・井上裕之(2016)「“パンダが亡くなりました”はおかしいですか?～2015年「日本語のゆれに関する調査」から①～」『放送研究と調査』66-6

2023年 日本語のゆれに関する調査
単純集計結果

1. 調査時期 2023 (令和5) 年2月3日～13日
2. 調査方法 調査員による個別面接聴取法
3. 抽出方法 層化副次 (三段) 無作為抽出法
4. 調査対象 満20歳以上の男女 (全国) 4,000人
5. 調査有効数 (率) 1,170人 (29.3%)

日本語の表現についてうかがいます。

Q1. あなたが次のように話す場合、下線を引いた部分はどのように言いますか。この中から1つだけお答えください。

「雨の場合は、遠足の中止もあり得る」

1. 「アリウル」と言う (「アリエル」とは言わない) … 22.7%
2. 「アリエル」と言う (「アリウル」とは言わない) … 48.3
3. 両方とも言うが、どちらかといえば
「アリウル」と言うことのほうが多い … 11.1
4. 両方とも言うが、どちらかといえば
「アリエル」と言うことのほうが多い … 17.4
5. このことばを知らない … 0.2
6. (わからない) … 0.3

Q2. この言い方についてはいかがですか。

「誰にでも起こり得る問題です」

1. 「オコリウル」と言う
(「オコリエル」とは言わない) … 34.9%
2. 「オコリエル」と言う
(「オコリウル」とは言わない) … 41.3
3. 両方とも言うが、どちらかといえば
「オコリウル」と言うことのほうが多い … 13.3
4. 両方とも言うが、どちらかといえば
「オコリエル」と言うことのほうが多い … 10.4
5. このことばを知らない … 0.1
6. (わからない) … 0.0

Q3. この言い方についてはいかがですか。

「ミサイルが3発発射された」

1. 「サンハツ」と言う (「サンパツ」とは言わない) … 10.2%
2. 「サンパツ」と言う (「サンハツ」とは言わない) … 76.8
3. 両方とも言うが、どちらかといえば
「サンハツ」と言うことのほうが多い … 4.4
4. 両方とも言うが、どちらかといえば
「サンパツ」と言うことのほうが多い … 8.7
5. このことばを知らない … 0.0
6. (わからない) … 0.0

Q4. この言い方についてはいかがですか。

「ミサイルが4発発射された」

1. 「ヨンハツ」と言う (「ヨンパツ」とは言わない) … 51.6%
2. 「ヨンパツ」と言う (「ヨンハツ」とは言わない) … 35.4
3. 両方とも言うが、どちらかといえば
「ヨンハツ」と言うことのほうが多い … 7.8
4. 両方とも言うが、どちらかといえば
「ヨンパツ」と言うことのほうが多い … 4.9
5. このことばを知らない … 0.1
6. (わからない) … 0.3

Q5. この言い方についてはいかがですか。

「3班に分かれて発表をおこなう」

1. 「サンハン」と言う (「サンパン」とは言わない) … 17.5%
2. 「サンパン」と言う (「サンハン」とは言わない) … 65.0
3. 両方とも言うが、どちらかといえば
「サンハン」と言うことのほうが多い … 6.8
4. 両方とも言うが、どちらかといえば
「サンパン」と言うことのほうが多い … 10.6
5. このことばを知らない … 0.0
6. (わからない) … 0.2

Q6. この言い方についてはいかがですか。

「4班に分かれて発表をおこなう」

1. 「ヨンハン」と言う (「ヨンパン」とは言わない) … 60.7%
2. 「ヨンパン」と言う (「ヨンハン」とは言わない) … 23.9
3. 両方とも言うが、どちらかといえば
「ヨンハン」と言うことのほうが多い … 10.7
4. 両方とも言うが、どちらかといえば
「ヨンパン」と言うことのほうが多い … 4.4
5. このことばを知らない … 0.0
6. (わからない) … 0.3

Q7. この言い方についてはいかがですか。

「3匹の子犬」

1. 「サンヒキ」と言う (「サンビキ」とは言わない) … 7.7%
2. 「サンビキ」と言う (「サンヒキ」とは言わない) … 79.6
3. 両方とも言うが、どちらかといえば
「サンヒキ」と言うことのほうが多い … 3.7
4. 両方とも言うが、どちらかといえば
「サンビキ」と言うことのほうが多い … 8.9
5. このことばを知らない … 0.0
6. (わからない) … 0.2

Q8. この言い方についてはいかがですか。

「4匹の子犬」

1. 「ヨンヒキ」と言う (「ヨンビキ」とは言わない) … 86.4%
2. 「ヨンビキ」と言う (「ヨンヒキ」とは言わない) … 5.8
3. 両方とも言うが、どちらかといえば
「ヨンヒキ」と言うことのほうが多い … 6.5
4. 両方とも言うが、どちらかといえば
「ヨンビキ」と言うことのほうが多い … 1.0
5. このことばを知らない … 0.0
6. (わからない) … 0.3

Q9. この言い方についてはいかがですか。

「そのまま3分間お待ちください」

1. 「サンフンカン」と言う
(「サンブンカン」とは言わない) … 7.0%
2. 「サンブンカン」と言う
(「サンフンカン」とは言わない) … 80.5
3. 両方とも言うが、どちらかといえば
「サンフンカン」と言うことのほうが多い … 3.8
4. 両方とも言うが、どちらかといえば
「サンブンカン」と言うことのほうが多い … 8.5
5. このことばを知らない … 0.0
6. (わからない) … 0.1

Q10. この言い方についてはいかがですか。

「そのまま4分間お待ちください」

- 1. 「ヨブンカン」と言う
（「ヨブンカン」とは言わない）…………… 36.4 %
- 2. 「ヨブンカン」と言う
（「ヨブンカン」とは言わない）…………… 47.6
- 3. 両方とも言うが、どちらかといえば
「ヨブンカン」と言うことのほうが多い…………… 8.6
- 4. 両方とも言うが、どちらかといえば
「ヨブンカン」と言うことのほうが多い…………… 7.1
- 5. このことばを知らない…………… 0.1
- 6. (わからない)…………… 0.2

Q11. この言い方についてはいかがですか。

「3泊4日の旅行」

- 1. 「サンハクヨッカ」と言う
（「サンハクヨッカ」とは言わない）…………… 4.4 %
- 2. 「サンハクヨッカ」と言う
（「サンハクヨッカ」とは言わない）…………… 83.5
- 3. 両方とも言うが、どちらかといえば
「サンハクヨッカ」と言うことのほうが多い…………… 3.1
- 4. 両方とも言うが、どちらかといえば
「サンハクヨッカ」と言うことのほうが多い…………… 8.8
- 5. このことばを知らない…………… 0.0
- 6. (わからない)…………… 0.2

Q12. この言い方についてはいかがですか。

「4泊5日の旅行」

- 1. 「ヨンハクイツカ」と言う
（「ヨンハクイツカ」とは言わない）…………… 49.7 %
- 2. 「ヨンハクイツカ」と言う
（「ヨンハクイツカ」とは言わない）…………… 37.1
- 3. 両方とも言うが、どちらかといえば
「ヨンハクイツカ」と言うことのほうが多い…………… 8.1
- 4. 両方とも言うが、どちらかといえば
「ヨンハクイツカ」と言うことのほうが多い…………… 4.7
- 5. このことばを知らない…………… 0.0
- 6. (わからない)…………… 0.3

Q13. この言い方についてはいかがですか。

「124日間も雨が降っていない」

- 1. 「ヒャクニジューヨッカカン」と言う
（「ヒャクニジューヨンニチカン」とは言わない）… 48.5 %
- 2. 「ヒャクニジューヨンニチカン」と言う
（「ヒャクニジューヨッカカン」とは言わない）… 40.4
- 3. 両方とも言うが、どちらかといえば
「ヒャクニジューヨッカカン」と言う
ことのほうが多い…………… 5.5
- 4. 両方とも言うが、どちらかといえば
「ヒャクニジューヨンニチカン」と言う
ことのほうが多い…………… 5.4
- 5. このことばを知らない…………… 0.0
- 6. (わからない)…………… 0.3

Q14. 「持続可能な」という意味で、㉠「サステナブル」、㉡「サステイナブル」、㉢「サスティナブル」ということばが使われています。これから、それぞれについてうかがいます。
英語としてではなく、日本語の会話や文章の中で使うことばとしてお考えください。

まず、「サステナブル」について、お考えにもっとも近いものをこの中から1つだけお答えください。

- 1. 自分では「サステナブル」と発音するし、
字で書くときにも「サステナブル」と書く…………… 26.3 %
- 2. 自分では「サステナブル」と発音するが、
字で書くときには「サステナブル」とは書かない
（別の書き方をする）…………… 6.1
- 3. 自分では「サステナブル」とは発音しないが、
字で書くときには「サステナブル」と書く
（別の発音をする）…………… 2.9
- 4. 自分では「サステナブル」とは発音しないし、
字で書くときにも「サステナブル」とは書かない
（別の発音・書き方をする）…………… 15.8
- 5. このことばを知っているが、
自分で発音したり書いたりすることはない…………… 19.9
- 6. このことばを知らない…………… 24.8
- 7. (わからない)…………… 4.2

Q15. 次に、「サステイナブル」についてはいかがですか。

- 1. 自分では「サステイナブル」と発音するし、
字で書くときにも「サステイナブル」と書く…………… 11.2 %
- 2. 自分では「サステイナブル」と発音するが、
字で書くときには「サステイナブル」とは
書かない（別の書き方をする）…………… 6.2
- 3. 自分では「サステイナブル」とは発音しないが、
字で書くときには「サステイナブル」と書く
（別の発音をする）…………… 2.6
- 4. 自分では「サステイナブル」とは発音しないし、
字で書くときにも「サステイナブル」とは
書かない（別の発音・書き方をする）…………… 27.2
- 5. このことばを知っているが、
自分で発音したり書いたりすることはない…………… 21.8
- 6. このことばを知らない…………… 26.8
- 7. (わからない)…………… 4.4

Q16. では、「サスティナブル」についてはいかがですか。

- 1. 自分では「サスティナブル」と発音するし、
字で書くときにも「サスティナブル」と書く…………… 31.2 %
- 2. 自分では「サスティナブル」と発音するが、
字で書くときには「サスティナブル」とは
書かない（別の書き方をする）…………… 5.6
- 3. 自分では「サスティナブル」とは発音しないが、
字で書くときには「サスティナブル」と書く
（別の発音をする）…………… 3.2
- 4. 自分では「サスティナブル」とは発音しないし、
字で書くときにも「サスティナブル」とは
書かない（別の発音・書き方をする）…………… 10.9
- 5. このことばを知っているが、
自分で発音したり書いたりすることはない…………… 19.9
- 6. このことばを知らない…………… 25.0
- 7. (わからない)…………… 4.3

Q17. 次の2つの言い方について、お考えに最もよくあてはまるものを、1つだけお答えください。

- [A]「全国の感染者数が、1か月ぶりに1万人を上回った。」
- [B]「全国の感染者数が、1か月ぶりに1万人を下回った。」

- 1. [A]も[B]もおかしくない…………… 71.1 %
- 2. [A]の言い方はおかしい（[B]はおかしくない）…………… 13.2
- 3. [B]の言い方はおかしい（[A]はおかしくない）…………… 9.4
- 4. [A]も[B]もおかしい…………… 2.6
- 5. (わからない)…………… 3.6

Q18. 次のことばについて、お考えに最も近いものをお答えください。

「クリスマスイブ」は…

1. 「12月24日の夜」を指すことばだ …… 62.4%
2. 「12月24日の朝から夜まで」を指すことばだ …… 34.1
3. (わからない) …… 3.5

Q19. 「クリスマスイブ」について、あらためてうかがいます。

「イブ」は英語でもともと「^{ばん}晩」という意味もあり、「クリスマスイブの夜」と言う意味が重なってしまうので間違った言い方である、というような指摘があります。これについて、お考えに最も近いものを1つだけお答えください。

「クリスマスイブの夜」は、間違った言い方だ

1. このような指摘は聞いたことがあるし、
そのとおりだと思う …… 15.2%
2. このような指摘は聞いたことがあるが、
そうは思わない …… 21.0
3. このような指摘はいま初めて聞いたが、
そのとおりだと思う …… 22.8
4. このような指摘はいま初めて聞いたが、
そうは思わない …… 33.3
5. (わからない) …… 7.6

Q20. ここにあげる2つの言い方について、お考えに最もよくあてはまるものを、1つだけお答えください。

[A] 「〇〇動物園のパンダが死んだ。」

[B] 「〇〇動物園のパンダが永眠した。」

1. [A] も [B] もおかしくない …… 37.0%
2. [A] の言い方はおかしい ([B] はおかしくない) …… 9.7
3. [B] の言い方はおかしい ([A] はおかしくない) …… 49.4
4. [A] も [B] もおかしい …… 2.5
5. (わからない) …… 1.4

Q21. この2つの言い方についてはいかがですか。

[A] 「あなたと私の考えは正反対だ。」

[B] 「あなたと私の考えは真逆(まぎやく)だ。」

1. [A] も [B] もおかしくない …… 62.1%
2. [A] の言い方はおかしい ([B] はおかしくない) …… 6.4
3. [B] の言い方はおかしい ([A] はおかしくない) …… 27.7
4. [A] も [B] もおかしい …… 1.9
5. (わからない) …… 2.0

Q22. この2つの言い方についてはいかがですか。

[A] 「計画を来年まで先延ばしにする予定だ。」

[B] 「計画を来年まで先延ばす予定だ。」

1. [A] も [B] もおかしくない …… 42.1%
2. [A] の言い方はおかしい ([B] はおかしくない) …… 10.4
3. [B] の言い方はおかしい ([A] はおかしくない) …… 44.4
4. [A] も [B] もおかしい …… 1.5
5. (わからない) …… 1.6

Q23. この2つの言い方についてはいかがですか。

[A] 「順調に進んでいるので、計画を前倒しにした。」

[B] 「順調に進んでいるので、計画を前倒した。」

1. [A] も [B] もおかしくない …… 37.4%
2. [A] の言い方はおかしい ([B] はおかしくない) …… 12.1
3. [B] の言い方はおかしい ([A] はおかしくない) …… 47.4
4. [A] も [B] もおかしい …… 1.5
5. (わからない) …… 1.6

Q24. この2つの言い方についてはいかがですか。

[A] 「無事にことしの仕事を納めました。」

[B] 「無事にことしの仕事が納まりました。」

1. [A] も [B] もおかしくない …… 22.0%
2. [A] の言い方はおかしい ([B] はおかしくない) …… 8.7
3. [B] の言い方はおかしい ([A] はおかしくない) …… 63.1
4. [A] も [B] もおかしい …… 3.2
5. (わからない) …… 3.0

Q25. テレビやラジオのニュースで、アナウンサーが読み上げる文についてうかがいます。ここにあげる文の中で、男の子の名前につける敬称として、どれが最もふさわしいと考えますか。この中から1つだけ選んでください。

「警察では〇〇〇〇(ちゃん・くん・さん)が事件に巻き込まれたとみて、捜査しています。」

[4歳～小学校入学前(6歳ぐらいまで)の場合]

1. ちゃん …… 36.7%
2. くん …… 47.7
3. さん …… 14.0
4. この中にはない …… 0.7
5. (わからない) …… 0.9

Q26. 次の場合はいかがですか。

「警察では〇〇〇〇(ちゃん・くん・さん)が事件に巻き込まれたとみて、捜査しています。」

[小学1年生～2年生(6歳～8歳)の場合]

1. ちゃん …… 14.5%
2. くん …… 65.6
3. さん …… 18.6
4. この中にはない …… 0.5
5. (わからない) …… 0.8

Q27. 次の場合はいかがですか。

「警察では〇〇〇〇(ちゃん・くん・さん)が事件に巻き込まれたとみて、捜査しています。」

[小学3年生～4年生(8歳～10歳)の場合]

1. ちゃん …… 7.1%
2. くん …… 68.4
3. さん …… 23.2
4. この中にはない …… 0.5
5. (わからない) …… 0.8

Q28. 次の場合はいかがですか。

「警察では〇〇〇〇（ちゃん・くん・さん）が事件に巻き込まれたとみて、捜査しています。」
 【小学5年生～6年生（10歳～12歳）の場合】

- 1. ちゃん 3.6%
- 2. くん 64.4
- 3. さん 30.8
- 4. この中にはない 0.5
- 5. (わからない) 0.8

Q29. 次の場合はいかがですか。

「警察では〇〇〇〇（ちゃん・くん・さん）が事件に巻き込まれたとみて、捜査しています。」
 【中学生（12歳～15歳）の場合】

- 1. ちゃん 0.6%
- 2. くん 35.0
- 3. さん 63.3
- 4. この中にはない 0.3
- 5. (わからない) 0.8

Q30. 次の場合はいかがですか。

「警察では〇〇〇〇（ちゃん・くん・さん）が事件に巻き込まれたとみて、捜査しています。」
 【高校生（15歳～18歳ぐらい）の場合】

- 1. ちゃん 0.3%
- 2. くん 17.3
- 3. さん 81.3
- 4. この中にはない 0.4
- 5. (わからない) 0.8

Q31. では、同じくテレビやラジオのニュースでアナウンサーが読み上げる文の場合、女の子の名前につける敬称として、どれが最もふさわしいと考えますか。この中から1つだけ選んでください。

「警察では〇〇〇〇（ちゃん・くん・さん）が事件に巻き込まれたとみて、捜査しています。」
 【4歳～小学校入学前（6歳ぐらいまで）の場合】

- 1. ちゃん 80.4%
- 2. くん 0.2
- 3. さん 18.0
- 4. この中にはない 0.4
- 5. (わからない) 0.9

Q32. 次の場合はいかがですか。

「警察では〇〇〇〇（ちゃん・くん・さん）が事件に巻き込まれたとみて、捜査しています。」
 【小学1年生～2年生（6歳～8歳）の場合】

- 1. ちゃん 70.5%
- 2. くん 0.0
- 3. さん 28.5
- 4. この中にはない 0.3
- 5. (わからない) 0.6

Q33. 次の場合はいかがですか。

「警察では〇〇〇〇（ちゃん・くん・さん）が事件に巻き込まれたとみて、捜査しています。」
 【小学3年生～4年生（8歳～10歳）の場合】

- 1. ちゃん 57.4%
- 2. くん 0.2
- 3. さん 41.5
- 4. この中にはない 0.3
- 5. (わからない) 0.7

Q34. 次の場合はいかがですか。

「警察では〇〇〇〇（ちゃん・くん・さん）が事件に巻き込まれたとみて、捜査しています。」
 【小学5年生～6年生（10歳～12歳）の場合】

- 1. ちゃん 39.7%
- 2. くん 0.3
- 3. さん 59.1
- 4. この中にはない 0.3
- 5. (わからない) 0.6

Q35. テレビやラジオのニュースで、アナウンサーが、フルネーム（名字と名前）で小学生の男の子を「〇〇くん」、女の子を「〇〇さん」と呼ぶことについてどう思いますか。この中から1つだけお答えください。

- 1. 小学生の場合、男の子も女の子も「さん」に統一するのがよい 28.4%
- 2. このとおりでよい（「さん」に統一しなくてよい） 47.0
- 3. どちらともいえない 23.3
- 4. (わからない) 1.3

サンプル構成

全体	性別		年齢						
	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上
1,170人	563	607	120	148	188	205	175	231	103
100.0%	48.1	51.9	10.3	12.6	16.1	17.5	15.0	19.7	8.8

全体	男性							女性						
	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上
1,170人	72	89	88	93	70	100	51	48	59	100	112	105	131	52
100.0%	6.2	7.6	7.5	7.9	6.0	8.5	4.4	4.1	5.0	8.5	9.6	9.0	11.2	4.4